

鹿児島島の昆虫 57

鹿児島県固有のクワガタムシ

昆虫担当 金井 賢一

鹿児島県の固有種

企画展では世界のカブトムシ、クワガタムシを紹介していますが、今回、鹿児島県に固有のクワガタムシを紹介します。

生物は突然変異を起こし、特徴的な性質が集団内に現れることがあります。通常はこの特徴（変異）は、生物が集団の間を行き来することで全体に広がって行きますが、海や山などで集団が隔てられて（隔離）いると、地域ごとに特有の特徴が見られるようになります。

交雑ができない程に変異が蓄積すると別種となりますし、交雑はできても明らかに特徴に違いがあって区別できる集団は「亜種」と呼ばれます。

奄美群島の固有種

アマミマルバネクワガタは、奄美大島、加計呂麻島、請島、徳之島にしかいない、固有種です。請島の集団は大アゴの突起が大きく発達しており、亜種とされています。本種は沖縄諸島にオキナワマルバネクワガタ、八重山諸島にヤエヤママルバネクワガタと、比較的近くに近縁種が分布しています。



アマミマルバネクワガタ

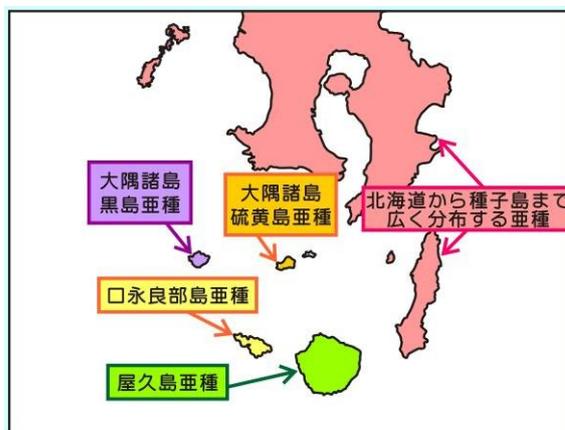


アマミシカクワガタ
(大坪博文氏提供)

しかし、アマミシカクワガタ、スジブトヒラタクワガタ、ヤマトサビクワガタという鹿児島県の固有種は、一番近い近縁種が台湾にしかおらず、琉球列島の形成される地史を解明する手がかりになるかもしれません。

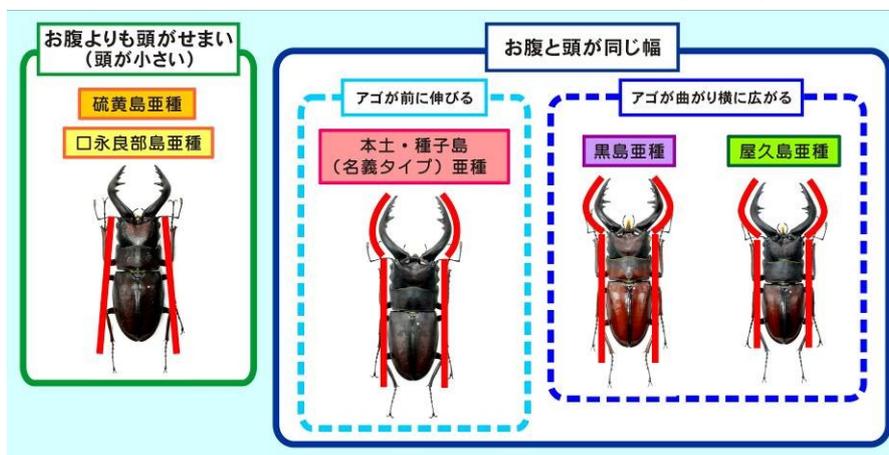
大隅諸島のノコギリクワガタ亜種

北海道から屋久島・種子島を含む大隅諸島まで、ノコギリクワガタは生息します。トカラ列島以南には、よく似たリュウキュウノコギリクワガタという別種がすんでいます。



その中で、大隅諸島では島ごとに亜種が提唱されています。少し細かく分けすぎているという批判もありますが、大きく成長したオス個体では、特徴が異なり区別することができます。

このように、本県が形成されてきた歴史の中で、「ここにしかいない」という、鹿児島島の宝と言うべき種が、生まれてきました。



大隅諸島のノコギリクワガタ亜種間の区別点